

宮崎県日向市との 中学生平和交流会



疎開体験者から聞き取りを行う中学生

平 和の願いを風化させることなく次代に引き継ぐため、浦添国民学校（現在の浦添小学校）の疎開先であった宮崎県日向市との交流を深めています。

市では終戦から約55年後の平成13年（2001年）から現在にいたるまで、毎年日向市の中学生を迎え市内の中学生との平和交流会を開いています。交流会では沖縄戦当時に市から日向市へ学童疎開した人びとを講師として招き、当時の疎開先での生活の様子や帰沖後の状況の話を聞き取りしながら「平和な世界を作っていくためにできること」をテーマに、自分たちに今何ができるかを考えていきます。

疎開でつながった縁を、子どもたちがつなぎ守ろうとしています。



疎開体験者と浦添市・日向市の中学生たち



疎開先で子守をした 赤ちゃんと再会

新垣 サダ子さん 84歳

あ る日、学校で先生が「内地に勉強しに行きたい人いますか？」と聞きました。「何の勉強か」「どこに行くのか」と思いながらも、すぐに手をあげました。ワクワクした気持ちでいっぱいでしたが、出発の日、船に乗り込んだら急に不安になり、悲しくなったのを覚えています。

宮崎の第一富高国民学校で、疎開生活がスタートしますが、空襲などがあり、浦添国民学校の第2班の疎開先である第二富高国民学校へと合流することになりました。

宮崎の冬はとても寒く、室内でも手はかじかみ、足はしもやけで痛くて毎日みんな泣きました。

第二富高国民学校に移動して数か月がたったある日、先生から、地元の家で子守りに行くように言われ、住み込みでの子守りをするようになりました。そこは、大きな農家で作物がとれるし、納屋もあったので、裕福だったので

をしました。

交流は今でも続いており、夏にはこちらからマンゴーや黒砂糖を贈ったり、宮崎からは米やみかん、しいたけなどが届きます。体が動きにくくなった今、日向市を訪れることはできなくても、今でもお世話になった日向市のことを忘れることはありません。

私の願いは、子や孫には、絶対あの戦争の苦い思いはさせたくないということです。

だから私はいつもこう言います。



▲50年ぶりの再会
写真右から2番目が当時0歳だった子

「あなたたちは、一生懸命勉強して、良い大人になって、戦争のない世の中にしてね。戦争だけは絶対にあってはいけないよ」と。

疎開体験のインタビュー動画を配信中

私の疎開体験記

検索



特集

つないできたもの
つないでいくもの

私の疎開体験記

沖縄に帰ってきても 誰も迎えにはきませんでした

新城 啓重さん 83歳

私

が学童疎開をしたときは、10歳で小学校3年生でした。第一高等学校を卒業したばかりの姉と小学校1年生の弟の3人で学童疎開をしました。

出発の前日、両親が私たちを座布団に座らせて、一緒に盃を交わしたことをよく覚えていいます。両親は、これが最後になるかもしれないということを感じていたのかもしれません。

不安と大きな船に乗れるという期待感を胸に抱え、1944年9月1日、運天丸に乗って富高町に向かいました。

その年の宮崎は、記録的な寒さで雪も降っていました。雪合戦をしたことが、疎開生活の中で一番楽しかった思い出ですが、辛い思い出もあります。

手や足が寒さでしもやけになり、お餅のように手足の甲が膨れ上がり非常に痛かったです。お風呂も毎日入れないので、体を温めることができず、洋服も夏



れるような気持ちでした。当時14歳と16歳だった兄は一中（現：首里校）の学徒隊、父は防衛隊として戦争に参加して戦死していました。

富高は私の第二の故郷です。疎開をしたとき、富高では大変

物しかない中で寒さをしのがなければならず、本当に辛かったです。寒さと同時にひもじさも宮崎

です。食事の量は、とても少なく、いつも飢えていました。芋の皮などのきれっぱしが道に落ちていると、それを拾って食べました。土ぼこりの中に落ちていても、ラッキードと言ってほこりを落として食べました。それぐ

らい食料に飢えていたのです。子どもたちは、皆、裸になると肋骨が見えるほどやせ細っていました。

戦争が終わって沖縄に帰ると、疎開学童は浦添小学校に集められました。そこで、家族が迎えに来るのを待ちました。皆、親や兄弟が迎えに来て一緒に帰っていきませんが、私と姉、弟の3人の中には、結局誰も来ませんでした。そこで、初めて私の家族全員が死んでしまったことを知りました。地獄に突き落とさ

苦しい思いをしたけれど、それでも、私にとっては第二の故郷です。

私は、戦争はもう二度とあってはならないと思います。

命ドウ宝。戦争体験者の深い心の傷は消えることはありません。戦争で消えるものはたくさんあります。すべてが消えてしまいます。でも、平和で消えるものはありません。いつまでも平和であることを願います。